

360度VR映像における 新たな情報開示手法に関する研究

芸術学部
写真・映像メディア学科
教授

星野 浩司



研究シーズの紹介

本研究では、古くから展示映像に用いられてきた360度全天球型VR動画の分野において、近年、安価で手に入れることが可能となり、一般的に身近となった360度撮影機器の有用性と現段階における適正な開示手法を検証している。その中で、インタビュー映像を含むVRコンテンツにおいて全天球型動画の特性を生かすことで、固定のインタビュー動画では

常識とされる編集過程におけるインサート映像の挿入を必要としない、これまでにない情報デザインが可能になるという新たな知見を得るに至っている。さらに、現状の360度動画撮影カメラの解像度がステッチによって下がる問題を固定のインサート映像を用いることで解決することが可能である。



インサート映像の 新たな構成が可能

- 固定のインタビュー動画では常識とされる編集過程におけるインサート映像の挿入を必要としない、これまでにない情報デザインが可能です。

360度VR映像における新たな情報開示手法に関する研究
Study on new information disclosure methods in 360-degree VR Movie.

現状の課題点を踏まえた映像構成の検証

- 解像度や球体による視認性の問題を考慮した映像構成



※「インサート映像」インタビュー映像上で声を生かして話者の映像上に被せる関連映像

期待される活用シーン

- 360度動画が天球型にステッチされる際、解像度が下がる問題



解像度が下がった天球型動画を
敢えて背景のインサート映像と捉え、
平面の動画をメインとする



- 視聴者は制作者が構成した映像を固定的に視聴するしかない



インタビュー映像の音声を聞きながら
自由な視点でインサート映像を
視聴することが出来る



その他の研究テーマ

- 生き物の学びをつなぐAIアクアリウムの研究